

「古都奈良の文化財」世界遺産登録25周年記念記者発表会

2023年8月22日（火）



はじめに

奈良市・公益社団法人 奈良市観光協会は、平成10年12月に「古都奈良の文化財」として東大寺・興福寺・春日大社・春日山原始林・元興寺・薬師寺・唐招提寺・平城宮跡が世界遺産登録され、今年で25周年を迎えることを記念して、秋口より来春までの約半年間、その魅力を国内外に発信する記念事業を開催します。本日は、記念イベントや、当該地域の魅力の数々をご紹介します。ぜひ、最後までご取材ください。

— I N D E X —

◆古都奈良の文化財の紹介	2～9
東大寺	2
興福寺	3
春日大社	4
元興寺	5
薬師寺	6
唐招提寺	7
平城宮跡	8
春日山原始林	9
◆記念事業の紹介	10～13
世界遺産「古都奈良の文化財」の六社寺を巡る「六社寺共通拝観券」発売	10
秋夜の奈良旅2023 世界遺産6社寺夜間特別参拝と夕景・夜景観賞	11
奈良のふゆ酒 世界遺産登録25周年記念ラベルで発売	12
デジタル再生古地図で巡る世界遺産、新・南都八景	13
今秋から来春にかけての奈良の行事	14～16



東大寺大仏殿（国宝）



盧舎那仏坐像(国宝)

東大寺

仏の加護により国家を鎮護しようとした聖武天皇の発願で建立されました。751年に大仏殿が完成し（『東大寺要録』による）、翌年には盛大な大仏開眼供養会が行われました。その後、1180年と1567年に兵火にあい主要伽藍を焼失しましたが、そのつど再建されました。現存する大仏殿は1709年に再建されたもので、世界最大規模の木造建造物としての威容を誇っています。本尊の盧舎那仏(るしゃなぶつ)坐像(国宝)は“奈良の大仏さま”とよばれ、全国の人たちに親しまれています。

東大寺 基本情報

◆所在地：奈良市雑司町406-1

◆アクセス：JR奈良駅、近鉄奈良駅 市内循環バス7分「東大寺大仏殿・春日大社前」下車徒歩5分

◆公式サイト：<https://www.todaiji.or.jp/>



中金堂



三重塔 (国宝)

興福寺

669年に建てられた山階寺を濫觴とし、平城京遷都にともない現地に移され興福寺と改号されました。

堂塔の発願は藤原氏をはじめ、天皇や皇后も参画し、その伽藍造営は国家事業として進められました。

平安時代以降、度々火災に見舞われましたが、藤原摂関家の権力を背景に再建されてきました。

五重塔は古都奈良のシンボルでもあり、猿沢池からの眺めは多くの観光客を魅了しています。

鎌倉時代再建の北円堂や三重塔、また室町時代再建の五重塔と東金堂の4棟が国宝に指定されています。

興福寺 基本情報

- ◆所在地：奈良市登大路町48
- ◆アクセス：近鉄奈良駅 東改札2番出口から、徒歩約5分。
JR奈良駅から、市内循環バス5分「県庁前」下車すぐ。
- ◆公式サイト：<https://www.kohfukuji.com/>



大宮（中門）



若宮（御本殿）
撮影：桑原英文

春日大社

創建は奈良時代の768年と伝わり、平城京の守護として神山御蓋山の麓に四柱の神様をお祀りしています。古代からの人々の信仰を今に伝え、また、皇室・貴族・武士からの崇敬をうけて繁栄しました。社殿の配置は古代からほとんど変わることなく、建物が周囲の自然とみごとに調和し、日本古来の神社のようすを伝えていきます。

“春日若宮おん祭”や、参道の石燈籠や回廊の釣燈籠のすべてに灯がともされる“万燈籠”などの年中行事は特に有名です。

大宮御本殿4棟（江戸時代）が、国宝建造物に指定されています。

春日大社 基本情報

- ◆所在地：奈良市春日野町160
- ◆アクセス：JR奈良駅、近鉄奈良駅から 春日大社本殿行バス8分終点下車すぐ、または市内循環バス8分「春日大社表参道」下車、徒歩10分
- ◆公式サイト：<https://www.kasugataisha.or.jp/>



極楽坊本堂・禅室（国宝）



五重小塔（国宝）

元興寺

6世紀末に蘇我馬子が創建した飛鳥寺を、平城京に移して創建したのが元興寺です。伽藍の中心部は、平安時代以降に衰退してきましたが、12世紀頃から「極楽坊」とよばれていた僧坊の一画が、浄土教の念仏道場として庶民の信仰を集めて栄えました。極楽坊の本堂と禅室は、奈良時代の僧坊を鎌倉時代に改築していますが、その部材の一部は古材を転用して使用されています。

なお、極楽坊の周辺一帯が「ならまち」で、古代元興寺の旧境内にあたります。中世に都市が形成され、今なお江戸時代末の古い町屋がところどころに残り、伝統的な町並みの景観をみることができます。

極楽坊本堂・禅室・五重小塔とも国宝建造物に指定されています。

元興寺 基本情報

- ◆所在地：奈良市中院町11
- ◆アクセス：JR奈良駅から徒歩20分、近鉄奈良駅から徒歩12分
- ◆公式サイト：<https://gangoji-tera.or.jp/>



金堂



東塔（国宝）

薬師寺

680年に天武天皇が藤原京で創建し、平城京遷都にともなって現所在地に造営されました。

東塔は730年に建立されたものですが、7世紀末に藤原京で創建された時の建築様式を踏襲して建てられたと考えられています。各重に裳階(もこし)というひさしがつく独特の形式の三重塔で、日本でもっとも美しい塔として知られています。

また、寺の西方にある大池から望む、若草山や春日山を背景にした伽藍の眺めは、奈良を代表する風景のひとつです。

東塔(奈良時代)・東院堂(鎌倉時代)の2棟が国宝建造物に指定されています。

薬師寺 基本情報

- ◆所在地：奈良市西ノ京町457
- ◆アクセス：近鉄橿原線 西ノ京駅すぐ。
JR奈良駅・近鉄奈良駅より奈良県総合医療センター行バス18分「薬師寺」下車すぐ。
- ◆公式サイト：<https://yakushiji.or.jp/>



金堂（国宝）



宝蔵（国宝・奈良時代）

唐招提寺

苦難の末に来朝した唐の僧・鑑真和上が、戒律を学ぶための寺院として759年に創建しました。

正面の美しい列柱や小説『天平の甞』の鷗尾(しび)で有名な金堂をはじめ、平城宮の東朝集殿(ひがしちょうしゅうでん)を移築した講堂など、今も創建当時の建物がよく残っています。まさしく奈良時代建築の宝庫といえるでしょう。

金堂(奈良時代)・講堂(奈良時代)・鼓楼(鎌倉時代)・宝蔵(奈良時代)・経蔵(奈良時代)の5棟が国宝建造物に指定されています。

唐招提寺 基本情報

- ◆所在地：奈良市五条町13-46
- ◆アクセス：近鉄西ノ京駅から徒歩10分。
またはJR奈良駅、近鉄奈良駅、近鉄西ノ京駅から奈良県総合医療センター行バス17分「唐招提寺」下車すぐ。
- ◆公式サイト：<https://toshodaiji.jp/>



朱雀門

平城宮跡

平城宮は、奈良の都・平城京の中央北端に造営された宮城で、東西1.3km、南北1km、面積120haの広さがあります。外周を築地大垣で囲んだ内部には、国の政治や儀式を執り行う大極殿(だいごくでん)・朝堂院、天皇の居所である内裏(だいり)、行政機関であるさまざまな役所、宴会を催す庭園などの施設がありました。

これらはみな木造建築だったので、地上の構造物は失われていますが、地下の遺構は良好な状態で保存されています。1950年代から発掘調査がはじめられ、その成果にもとづいて、1998年に朱雀門と東院庭園、2010年に第一次大極殿が復元されるなど、遺跡博物館としての整備も同時に進められています。特別史跡に指定されています。

平城宮跡（特別史跡） 基本情報

- ◆所在地：奈良市二条大路南、奈良市佐紀町
- ◆アクセス：（朱雀門まで）
 - ・近鉄大和西大寺駅南口 から ぐるっとバス「朱雀門ひろば」下車
 - ・近鉄奈良駅から ぐるっとバス「朱雀門ひろば前」下車
 - ・JR 奈良駅西口または近鉄奈良駅から 奈良交通バス「朱雀門ひろば前」下車すぐ（第一次大極殿まで）
 - ・近鉄大和西大寺駅から 徒歩約 10 分
 - ・JR 奈良駅西口から または近鉄大和西大寺駅から 奈良交通バス「佐紀町・大極殿」下車
- ◆公式サイト：<https://www.heijo-park.jp/>



春日山原始林（特別天然記念物）



鶯の滝

春日山原始林

春日大社の東側にある春日山は、841年に狩猟と伐採が禁止されて以来、春日大社の聖域として保護されてきました。原生的な状態を維持している照葉樹林としても貴重ですが、日本人の伝統的な自然観と深く結びついて保護されてきたということが、人のかかわりを示しています。スケールの大きな鎮守の森なのです。このため、春日大社と一体のものとして文化遺産に含まれています。

特別天然記念物に指定されています。

春日山原始林（特別天然記念物） 基本情報

- ◆所在地：奈良市春日野町
- ◆アクセス：JR奈良駅・近鉄奈良駅より 春日大社本殿行きバス「春日大社本殿」下車、徒歩5分
- ◆公式サイト：<https://www3.pref.nara.jp/park/item/2587.htm>

史上初、世界遺産「古都奈良の文化財」の六社寺を巡る 「六社寺共通拝観券」発売 拝観御礼品の進呈・期間限定御朱印の授与



史上初！世界遺産「古都奈良の文化財」の六社寺を巡る「六社寺共通拝観券」
(表紙 東大寺第224世別当 橋村公英 師 筆)



東大寺



興福寺



春日大社



元興寺



薬師寺



唐招提寺

史上初めての世界遺産「古都奈良の文化財」の六社寺を巡る「六社寺共通拝観券」を、奈良時代に創建した六社寺のご協力のもと、観光案内所等で販売します。1社寺につき1回の利用で、2024年3月末まで利用可能です。各社寺から拝観御礼品（散華等）を受けられることができるほか、各社寺の歴史などをモチーフにしたデザインの期間限定特別御朱印（別途御朱印料必要）がいただけます。

【期間限定特別御朱印】

期間限定特別御朱印は各社寺の歴史などをモチーフに作成されています。

※共通拝観券購入者だけの特典（別途御朱印料）

◎御朱印のモチーフ

東大寺：金銅八角燈籠

興福寺：五重塔西に残る石燈地輪

春日大社：下り藤と釣燈籠

元興寺：板絵智光曼荼羅 中央宝楼閣部分

薬師寺：東塔水煙の笛吹童子

唐招提寺：金堂鴟尾

共通拝観券 概要

有効期間：2023年8月22日から2024年3月31日まで

金額：1冊5,000円 ※障害者手帳をお持ちの方は3,000円（限定20,000枚）

発売開始：本日2023年8月22日から（奈良交通1日バス券の割引、市内飲食/物販店の割引特典あり）

販売場所：奈良市総合観光案内所・近鉄奈良駅総合観光案内所・奈良まほろば館 他

拝観箇所：東大寺（大仏殿）・興福寺（国宝館）・春日大社（御本殿特別参拝）・

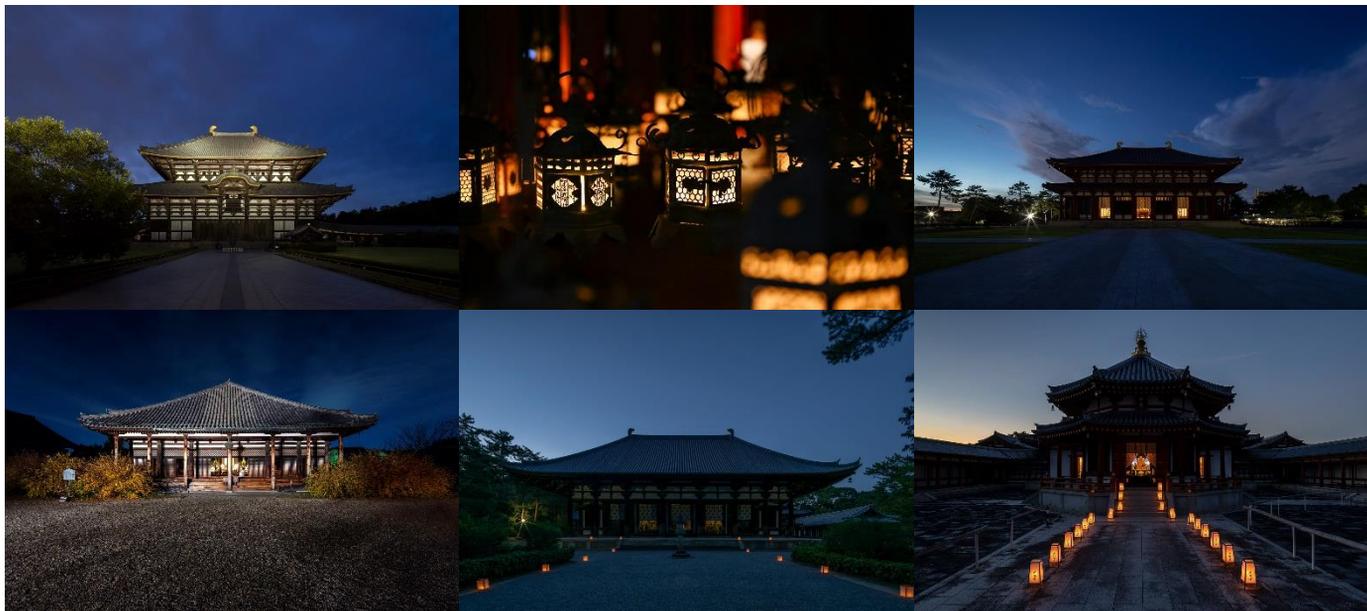
元興寺（通常拝観）・薬師寺（白鳳伽藍と玄奘三蔵院伽藍※）・唐招提寺（通常拝観）

※薬師寺（2024年1月16日～白鳳伽藍のみ）

しゅうや

秋夜の奈良旅2023

世界遺産6社寺夜間特別参拝と夕景・夜景観賞



上段：東大寺 大仏殿、春日大社 万燈籠イメージ、興福寺 中金堂
下段：元興寺 極楽堂（本堂）、唐招提寺 金堂、薬師寺 玄奘塔、
※写真はイメージです。実際の見え方とは異なる場合があります。

深まる秋の夜を満喫する催し「秋夜の奈良旅2023」が11月の毎週金・土曜日に行われます。世界遺産の東大寺、興福寺、春日大社、元興寺、薬師寺、唐招提寺で夜間特別参拝が行われるほか、美しい夕景や夜景を若草山山頂へ観に行く、奈良若草山トワイライト・夜景観賞バスが運行します。

秋夜の奈良旅2023 概要

期間：令和5年11月3日（金・祝）～25日（土）の毎週金・土曜日 ※一部土曜のみ
企画：公益社団法人 奈良市観光協会

【世界遺産6社寺夜間特別参拝】※いずれも予約不要

◇期間中の金・土曜日開催

- ・東大寺 国宝・大仏殿 夜間特別参拝
- ・興福寺 中金堂 夜間特別参拝
- ・元興寺 国宝・極楽堂（本堂）夜間特別参拝と境内ライトアップ（ほか）

◇期間中の土曜日開催

- ・春日大社 大宮・若宮御本殿夜間特別参拝と万燈籠特別開催
～「春日若宮御祭凶屏風」複製特別公開中（若宮神楽殿）～
- ・唐招提寺 国宝・金堂 夜間特別参拝
- ・薬師寺 玄奘三蔵院伽藍と平山郁夫大唐西域壁画特別公開

【奈良若草山トワイライト・夜景観賞バス】

◇期間中の土曜日運行

- ・JR・近鉄奈良駅を出発
- ・予約制

詳細は9月中旬頃にリリース予定

秋夜の2023
奈良旅



タイミングが合えば、鹿と夕日のシャッターチャンスも ※写真はイメージです

奈良のふゆ酒

世界遺産登録25周年記念ラベルで発売



奈良のふゆ酒

奈良の各酒蔵のブランド「升平」「豊祝」「春鹿」「梅乃宿」「猩々」が、共通のラベルで毎年冬に販売している商品です。飲み比べや熱燗・冷やなど、いろいろな味わい方ができます。今年、世界遺産登録25周年を記念し、世界遺産特別ラベルにて販売いたします。

販売価格：各1,188円（税込）

発売開始：2023年10月15日

【奈良のふゆ酒】

升平 純米大吟醸：奈良春日山酒造（奈良市）

豊祝 純米大吟醸：奈良豊澤酒造（奈良市）

春鹿 純米大吟醸：今西清兵衛商店（奈良市）

梅乃宿 純米大吟醸：梅乃宿酒造（葛城市）

猩々 純米大吟醸：北村酒造（吉野町）



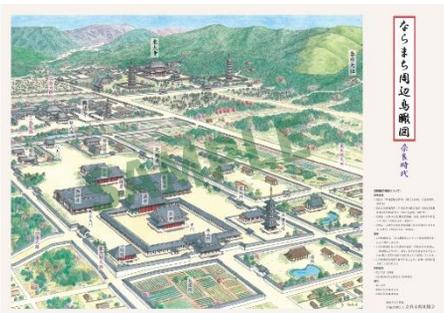
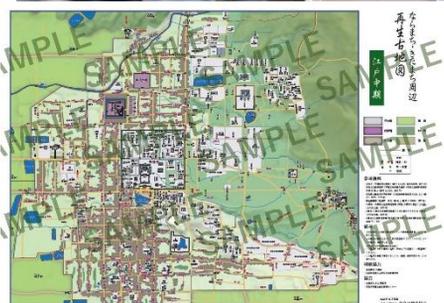
◆奈良しゅわボール



奈良しゅわボール

公益社団法人 奈良市観光協会、奈良市飲食店組合、古都のお酒で乾杯しよう実行委員会による「奈良しゅわボール」は、奈良の地酒を炭酸飲料などで割って味わう、日本酒のハイボールです。日本酒に飲み慣れていない人でも飲みやすい味わいです。奈良市内のホテルやレストラン、バーで提供中です。

デジタル再生古地図で巡る世界遺産



江戸時代中期（1700年頃）を最新の地図調製技術を使って距離・面積・形・方角を正しく再現した「スマホで再生古地図（スマコチ）」は、現代の地図と古地図がスマホで簡単に比較できます。GPS機能で自分の立ち位置を正確に確認でき、歴史ファン、地図ファンの町探訪に最適なツールです。カフェや雑貨店、町家といった街歩きスポット「ならまち」と、近鉄奈良駅の北側に広がる、新観光スポット「きたまち」。「ならまち」と「きたまち」の再生古地図を見ながら、街をゆくりと散歩してみませんか？

「ならまち・きたまち周辺再生古地図」は、デジタル版と印刷版が今秋から販売開始予定です。ガイド付きで楽しめる古地図ツアー「スマコチ（スマホで古地図さんぽ）シリーズ（①興福寺旧境内コース、②元興寺旧境内ならまちコース、③奈良市きたまちコース）」は予約受付予定です。

デジタル再生古地図

販売価格：500円～（ダウンロード）

印刷版再生古地図・鳥瞰図

販売価格：1,500円～

発売開始：2023年9月～



ガイド付き古地図ツアーは奈良市観光体験予約サイト「NARA タイム」
[\(https://narashikanko.or.jp/naratime/ja/\)](https://narashikanko.or.jp/naratime/ja/)
 で予約受付予定です。

新・南都八景（世界遺産八景）の制定

日本各地にある「～八景」の一つ「南都八景」は、室町時代に始まり、江戸時代に定着したと言われています。長い間、奈良を象徴する風景として親しまれてきました。世界遺産登録25周年を記念して、8資産を舞台にした、新・南都八景を一般より募集し、選定いたします。

南都八景（室町時代～）

とうだいじのかね 東大寺鐘	東大寺の鐘楼(大鐘)
かすがののしか 春日野鹿	春日大社周辺の鹿
なんえんどうのふじ 南円堂藤	興福寺南円堂の藤
さるさわいけのつき 猿沢池月	猿沢池にかかる月
さほがわのほたる 佐保川蛍	桜の名所・佐保川の蛍
くもいざかのあめ 雲井坂雨 （雲居坂雨）	雲井坂に降る雨の風情
とどろきげしのたびびと 轟橋旅人	轟橋を往来する旅人
みかさやまのゆき 三笠山雪	三笠山(御蓋山)に積もる雪

◆今秋から来春にかけての奈良の主な行事

開催日程	行事名	内容
2023年9月29日（金）	采女祭	<p>采女祭（うねめまつり）は、猿沢池のほとりにある春日大社の末社「采女神社」の例祭で、采女の霊を鎮め同時に人々の幸せを祈るお祭として、中秋の名月に行われます。</p> <p>例祭は時代衣装をまとって花扇使らが市内を練り歩く「花扇奉納（はなおうぎほうのう）行列」に始まり、采女神社例祭の神事が行われた後、花扇を管絃船に移し、雅楽の調べとともに池を巡る「管絃船の儀（かんげんせんのご）」が行われ、最後に花扇を池に投じます。</p>  <p style="text-align: center;">過去の采女祭の様子</p>
2023年10月21日（土） ・22日（日）	平城京 天平祭・秋	<p>平城宮跡の朱雀門ひろばでは、奈良時代を体感できる毎年恒例のイベント「みつきうまし祭り～平城京天平祭・秋～」が開催されます。「みつき」とは、祭りのために収穫した食や花、音楽などを自分の尊敬するすべてのものに献上するという古代の言葉。「うまし」には「美しい」と「おいしい」の意味が込められています。朱雀門周辺では平城京内を警護していた「衛士隊」の隊列が再現されるほか、多種多様なパフォーマンスが繰り広げられます。</p>
2023年10月28日（土） ～11月13日（月）	奈良国立博物館 第75回 正倉院展	<p>正倉院宝物は、東大寺の重要な資財を保管する倉であった正倉院正倉に伝来した宝物群です。</p> <p>正倉院展では、およそ9000件にも上る正倉院宝物の中から毎年60件前後が公開されます。75回目の開催となる本年も、調度品、楽器、服飾品、仏具、文書といった正倉院宝物の全体像がうかがえるラインナップで、宝物の魅力を余すことなく伝えます。</p>
2023年12月15日（金） ～18日（月）	春日若宮 おん祭	<p>春日若宮おん祭とは、春日大社の境内にある摂社 若宮の例祭です。</p> <p>平安末期の保延2年（1136年）、時の関白・藤原忠通が天下安泰、五穀豊穡、万民和楽を願い大和一国を挙げて執り行って以来、長い歴史の中で1度も途切れることなく今年で888回目を迎えます。奉納される神事芸能は多岐にわたり、真夜中に行われる厳粛な神事もあります。昭和54年（1979年）には、国の重要無形民俗文化財に指定され、日本の伝統文化や風俗を今に伝える存在です。</p>

◆今秋から来春にかけての奈良の主な行事

開催日程	行事名	内容
2024年1月27日（土）	若草山焼き	<p>古都奈良に早春を告げる伝統行事として、毎年1月の第4土曜日に開催されます。春日大社・興福寺・東大寺の神仏が習合し、先人の霊魂と慰霊、奈良全体の防火と世界の人々の平和を祈る炎の祭典です。夜空を焦がすように山全体がダイナミックに燃え上がる様子を間近で見ようと、例年、山麓や奈良公園には多くの人が集まります。大花火が打ち上げられた後、山へ一斉に点火されます。</p>
2024年2月上旬予定	珠光茶会	<p>茶道の源流ともいえる「わび茶」を奈良の地で創始した室町時代の茶人・珠光にちなみ、凜とした冬の古都の風情を味わいながら、お茶文化に親しんでもらうため、開催されています。世界遺産五社寺（東大寺・春日大社・元興寺・薬師寺・唐招提寺）の他、大安寺、西大寺、法華寺、奈良町にぎわいの家など歴史的な建造物で、表千家、裏千家、武者小路千家、遠州流、石州流、藪内流、宗偏流などによる茶の湯が体験できます。</p> <div data-bbox="943 779 1368 1058" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">過去の珠光茶会の様子</p>
2024年2月上旬予定	なら瑠璃絵	<p>～しあわせ回廊～なら瑠璃絵は、春日大社、東大寺、興福寺の三社寺をはじめとする奈良公園一帯を瑠璃色のライトアップやイルミネーションで彩るイベントです。三社寺を幻想的な「光の回廊」でつなぎ、美しく神秘的な瑠璃絵の世界に皆様を誘います。</p> <p>それぞれの社寺で手を合わせて頂くことでしあわせが訪れ、そして小さな祈りの数々が大きな平和の祈りとなって世界に届くように…。いつまでも瑠璃色の星が美しく輝くようにと願いを込めて実施されます。</p> <div data-bbox="925 1510 1348 1790" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">過去のなら瑠璃絵の様子</p>

◆今秋から来春にかけての奈良の主な行事

開催日程	行事名	内容
2024年 1月5日（金）～ 2月29日（木）	路地ぶら ならまち・きたまち	<p>奈良市街地をぶらりと巡る冬のキャンペーン「路地ぶら」。昨年好評の「ならまち」から、今年は「きたまち」にもエリアを拡大して、街歩きを楽しむイベントが実施されます。ならまち・きたまちにある4つのお寺・神社では期間限定の特別御朱印がいただけるほか、通常は一般公開していないお寺などで、案内付の拝観と御朱印がいただけます。また、お寺・神社の路地ぶらと合わせて楽しめるグルメ企画や、路地ぶら関連ツアーのほか、鹿が大集合する「冬の鹿寄せ」（下記の記事を参照）も実施予定です。</p> 
2024年 1月～3月	冬・春の鹿寄せ	<p>春日大社境内地の飛火野（とびひの）で、夏と冬の風物詩になっている「鹿寄せ」。ナチュラルホルンの音色によって、群れをなして呼び寄せられる鹿の姿を見ることができます。</p>  <p style="text-align: center;">鹿寄せの様子</p>
2024年 3月1日（金）～ 14日（木）	修二会	<p>1270年以上、二月堂で1度も絶えることなく続く東大寺の伝統行事。令和6年で1273回目を迎えます。二月堂の本尊である十一面観世音菩薩に、参籠（さんろう）する僧侶が人々に代わり罪を懺悔し、国家の安泰と万民の豊樂を祈ります。現在、3月1日より2週間にわたり行われていますが、もとは旧暦の2月1日から行われていたことから、二月に修する法会という意味で「修二会」と呼ばれています。また二月堂の名前の由来でもあります。</p> <p>12日深夜（13日の1:30頃）には、若狭井（わかさい）という井戸から観音様にお供えする「お香水（おこうずい）」を汲み上げる儀式「お水取り」が行われます。また、この行を勤める練行衆（れんぎょうしゅう）と呼ばれる僧侶の道明かりとして、每晚19:00（12日は19:30、14日は18:30）から、童子（どうじ）と呼ばれる人が長さ6mもの大松明を担いで二月堂へ送る「お松明」が行われます。観客の頭上に火の粉を散らしながら童子が舞台を回る光景は圧巻です。「お水取り」が終わると奈良に春が訪れると言われるほど、古くから奈良の人々に親しまれる行事です。</p>